

北の子

浜岡北小学校だより 令和2年度4月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

＜重点目標＞

進んで関わり 認め合う子

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国的に多くの学校が春休み後も引き続き臨時休業になっていますが、本校では無事始業式や入学式が行われたことを嬉しく思います。子どもたちも仲間や職員との再会や出合いを喜び、希望を胸に張り切って学校生活を送っていました。しかし、残念なことに本校も4月11日から臨時休校の措置を取ることになりました。今後、早く収束に向かい、通常の教育活動が再開される日を心待ちにしています。

目標に向かって頑張る北小の子の育成

約10年後の社会を見据えて作成され、本年度から小学校で完全実施される「学習指導要領」では、

- ・「情報化、グローバル化の加速的進展」や「人工知能(AI)の飛躍的進化」にみられる急激な社会的な変化の中では、「**予測困難な時代にあっても、未来の創り手となるために必要な資質・能力を子どもたちに育むこと**」が重要。
- ・育成を目指す資質・能力の三本柱は「**生きて働く知識及び技能の習得**」「**未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力**」「**学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性**」。

ということが書かれています。昨年度末、この学習指導要領や令和元年度の成果・課題をもとに令和2年度を目指す本校の子ども像について話し合い、それをもとに、以下のような2つの目標を決めました。

◆**学校教育目標** 「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

◆**重点目標** 進んで関わり 認め合う子



学校教育目標は、昨年度が『「たくましさ」と「思いやり」いっぱいの子』でした。「**たくましさ**」と「**思いやり**」を残したのは、やはり将来の自立のために、本校の子どもたちに最も求められる力だと考えたからです。そして、新たに「**未来をつくる**」という言葉を入れた理由は、教師や保護者が将来どれほど厳しい社会になるのか（例えば人口減少対策総合研究所は、今後続く少子高齢化の結果「高齢者数がピークを迎える2042年頃には、無年金・低年金の貧しく身寄りのない高齢者が街にあふれかえり、生活保護受給者が激増して国家財政がパンクするのでは。」という懸念を示している。）

ということイメージしてそういったことに立ち向かいながら自分達の力で明るい未来を創ろうとする人を育成するという強い意志をもつことや、**子どもたちにも常に未来に目を向けさせて目標をもたせることが大切**であると考えたからです。「スクラム御前崎」で目指す子どもの姿が『**郷土を愛し、未来を創る子**』であることも理由の一つです。

重点目標を「**進んで関わり 認め合う子**」とした理由は、「話す」を中心とした関わりを積極的に行う中で、多様な考え方や価値観の違いに気付かせ、認めたり自分に取り入れたりできるようにしたいからです。そういったことが、中学校などへの進学時における他校出身者との円滑な人間関係の構築や、さらには社会人になったときの多様な人との協力・協働に生かすことができると考えています。

なお、学校経営に関する詳細は、後日配布するPTA総会の資料をご覧ください。

最後に、昨年度の学校だより12月号でお知らせしたように、本年度は、様々なことで改革を行います。さらには新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な教育活動の縮小や延期・中止などもありますが、そういった状況の中でも子どもたちの成長のために職員一同最善を尽くしてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

(校長 北原 弘明)

